

合併推進協議会委員 先進地視察研修の報告

去る一月三十日から三十一日にかけて、県内でも先進地である天草合併協議会（二市八町）と天草上島4町合併協議会を視察研修しましたので概要を報告します。

研修には協議会委員（町長、議会代表者、学識経験者で構成）及び各町村総務課長並びに事務局職員計三十一名（うち女性三名）が参加し、一日目は会場を県天草総合庁舎の会議室で天草合併協議会の山中事務局次長から地方分権や地方財政、また少子高齢化等の福祉行政からみた市町村合併の必要性や合併協

定項目の具体的な調整内容について説明を受けました。



特に新市の名称について、この地域の包括的に呼称・総称する名称で歴史的な背景

内外にひろく周知され、住民にもなじみ親しまれている「天草」という名称以外には考えられないということとで「天草市」とつけられ、公募という一般的な方式はとらなかつたということでした。

阿蘇と同じ全国有数の観光地である「天草」というブランドへのこだわりには一同深い共感を覚え大変参考になりました。

二日目は、宿舎会議室において、天草上島4町合併協議会の古閑事務局次長から今までの取り組み状況について説明を受けました。

4町合併後の人口は、阿蘇中部4町村と類似しており約三万四千人あまりです。

市か町にするかの議論の中では、天草の玄関口として中核的なまちづくりをしたい、市の方がイメージアップを図るうえで有利である、福祉政策を主体的にやっていきたいといった点などから市制を採択され「上天草市」とつけられました。

両協議会とも合併で一番大切な民意を尊重し、天草合併協議会では住民ワークショップや住民アンケート等により、新市の宝となる資源の発掘や地域に賦存する宝探し・宝づくりに寄り合い会議等ユニークなアイデアで夢のある新市構想を策定中であります。

この二日間、各委員からは活発な

意見や質問が飛び交われ予定時間を大幅に上回る有意義な研修でした。

参考：天草合併協議会（本渡市、牛深市、有明町、御所浦町、倉岳町、栖本町、新和町、五和町、天草町、河浦町、以上合併後の人口約十万人）

天草上島4町合併協議会
（大矢野町、松島町、姫戸町、龍ヶ岳町、以上合併後の人口約三万四千七百人）



次回協議会開催日

三月十一日（火）

一の宮町就業改善センター

時間／午後一時三十分からの予定です。

※協議会の開催日及び開催時間
毎月第二火曜日の午後一時三十分開会を原則としています。変更するときはあります。

傍聴等を希望される場合は、事務局又は町村役場にお問い合わせください。

合併事務局 三五一四〇一一

編集後記

最近、新聞に合併に関する記事が掲載されていない日は少ない。地方版だけでこの状態だから、全国的には相当の数であろうと思います。

熊本県内すでに、合併に関する任意の協議会が九、法定協議会が九の合計十八の協議会が存在し、さらに枠組みを検討している町村があります。

連日合併のことが関心を高めている大きな理由の一つに、十七年三月三十一日の合併特例法の期限がせまっていることがあげられます。すなわち、この期限内までに合併が成立すれば、合併特例法の優遇措置をうけられることになる反面、小規模町村は、単独で残れば財源確保に苦慮することになるといった状況にあるからです。

複数の自治体が一つになることには、たくさんの調整が必要であり、すべてが住民の方に喜ばれることばかりではないでしょう。しかし、国・地方共に財源が豊かでない状況と、交通体系の発達など、時代変化の現状に立ち、将来のことを思い、よりよき方向に足を運ぶべきではないだろうかと思えます。